

横浜市 麻しん流行情報 2号

横浜市衛生研究所 / 横浜市健康福祉局健康安全課

麻しん患者の報告が続いています。

- ◆ 2015年に日本が麻しん排除国に認定されてから、海外で麻しん(はしか)に感染して国内で発病する事例は報告されていましたが、4月以降、**海外渡航歴のない感染経路不明の麻しん感染が報告され、すでに昨年を上回る報告数です。**
- ◆ 麻しんは非常に感染力が強く、その予防には**2回の予防接種が必要です。麻しん・風しん混合ワクチン(MR ワクチン)を確実に接種しましょう。**
- ◆ 感染が疑われる際は、**必ず医療機関に事前に電話連絡の上、マスクを着用し、公共交通機関の利用を避けて、早めに受診しましょう。**

1 麻しん(はしか)とは？

感染経路は空気感染、飛沫感染や接触感染など様々で、感染力はとても強く、免疫がない人が感染するとほぼ100%発症します。潜伏期間は10~12日ほどで、熱やせき、鼻水など、風邪のような症状が出て、数日すると38℃以上の高熱と、全身の赤い発しんが出現します。肺炎や脳炎などの合併症を併発すると、時に命に関わることもあります。

熱やせきなどの症状が出現する1日前(発しん出現の3~5日前)から発しん出現後4~5日(または解熱後3日)くらいまで、周りの人に感染させる力があります。感染拡大防止のため、なるべく外出を控えるなどの行動の注意が必要です。

- ◆ 参考：[麻しんについて\(国立感染症研究所\)](#) [麻しん・風しんについて\(横浜市保健所\)](#)

2 海外渡航歴のない麻しん患者(検査診断例)発生状況(市内感染症発生動向調査:2019年5月29日現在)

[前号](#)に掲載した海外渡航歴のない患者8名に加え、新たに海外渡航歴のない4名の患者の報告がありました。4名のうち2名は麻しん患者との接触が確認されていますが、2名は不明です。

現在までの衛生研究所の検査では、遺伝子型は5名がB3型、5名が検査中です。B3型は、世界的に流行している遺伝子型です。

	発病日	年齢	遺伝子型	患者との接触
9	5月6日~12日	30歳代	不明	不明
10	5月13日~19日	20歳代	検査中	不明
11	5月20日~26日	20歳代	検査中	あり
12		30歳代	検査中	あり

- ◆ 参考：[世界における麻しんウイルス遺伝子型の分布\(WHO ホームページより抜粋\)](#)

3 予防接種について

麻しんは、予防接種法による定期予防接種の対象疾病です。現在実施している定期予防接種では、「麻しん・風しん混合ワクチン」(MR ワクチン)を2回接種します。

【標準的な接種期間】 1期:1歳以上2歳未満 2期:5歳から7歳未満で小学校就学前1年間

- ◆ 参考：[麻しん風しん予防接種について\(横浜市保健所\)](#)

【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237
横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2463